

フードチェーン食育推進活動の実施概要とその事業効果

～生産から食卓までの食の流れを体系的に組み込んだ
食育活動の実施を通じた実態調査の報告～

平成27年7月31日
一般社団法人ファイブ・ア・デイ協会

フードチェーン食育推進活動について

■ 目的

一般生活者を対象に、生産から食卓に至るまでの流れ“フードチェーン”を伝え、その一端に触れる食育プログラムを提供し、食の恩恵や大切さを体感することで、より深い関心・より健康的な摂取行動へとつながることを狙いとしました。

■ 背景

1. 食の簡便化・外部化
2. 入手経路の複雑化・食の不安
3. 多忙な生活の中での食への軽視

食べ物がどのように生産されて、いかにたくさんの人の手を経て食卓に届いているかを理解すれば、それを糧とする生活者はもっと食を大切にしよう…

フードチェーンの全体像

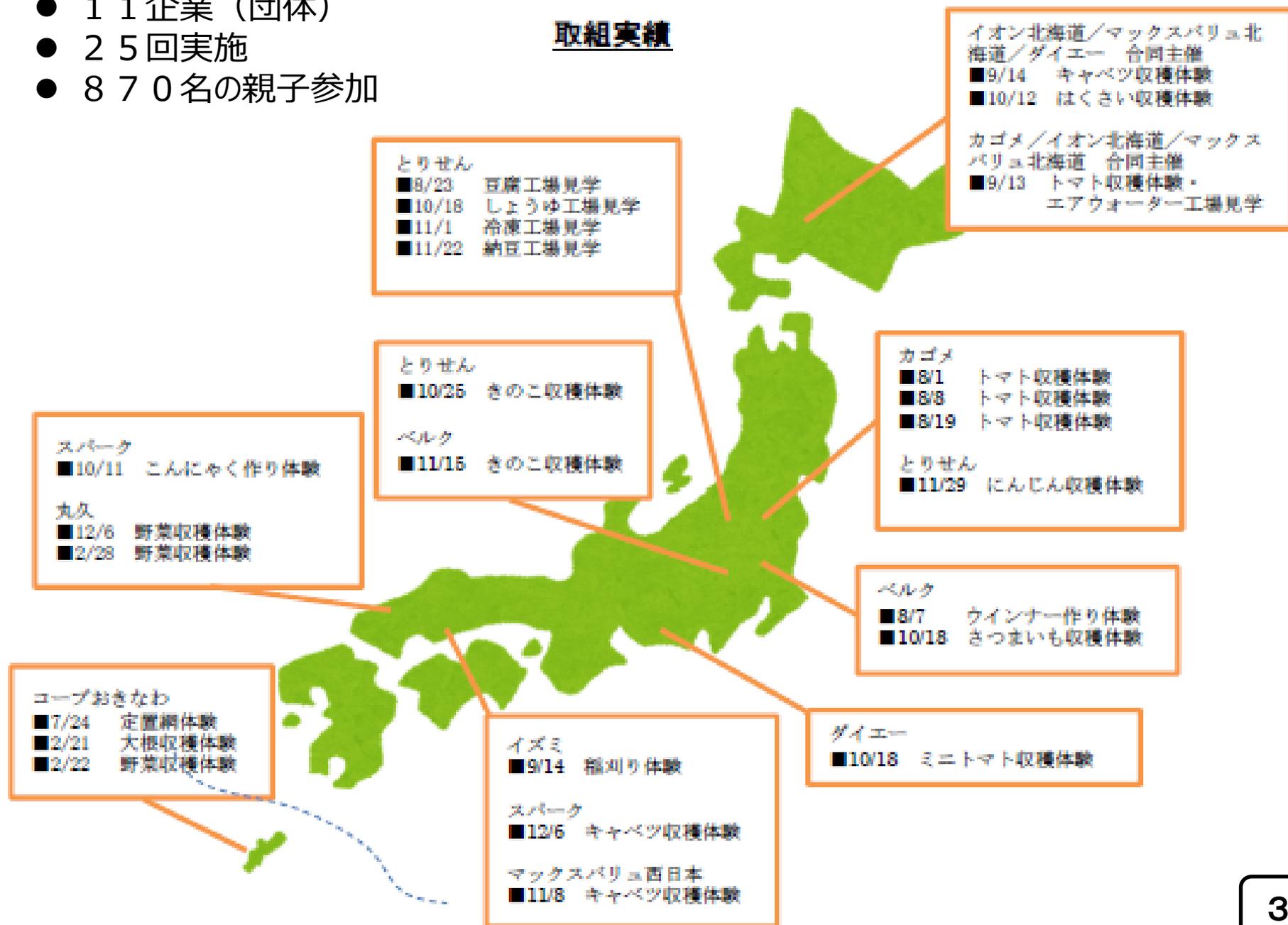


農林水産省 平成26年度 フードチェーン食育活動推進事業

フードチェーンの定義は幅広い。
当プログラムでは、食育として伝えたい定義をシンプルにまとめて共通化しました。

- 11企業（団体）
- 25回実施
- 870名の親子参加

取組実績



フードチェーン食育の実施条件

1. 農作業体験もしくは製造現場の見学と5 ADAY食育インストラクターによるフードチェーンと食生活の講義時間(30分)の確保
2. 移動バス内での食育DVD
「フードチェーンってなあに? (5 ADAY協会作成)」の視聴時間の確保
3. 参加者への効果測定のための全国統一アンケートの実施



農産体験＋とれたて野菜の試食＋物流センター見学 (収穫・運搬・物流の仕組みを見る・知る)



かんたんに
つくれる白菜レシピ
(3バリエーション)
※北海道栄養士会協力



【物流センター見学】野菜はどうやって、お店にはこぼれるの？

収穫＋加工＋下処理＋販売体験 (収穫・流通・販売の流れの体験)



事業評価

調査方法と参加者属性

■ 調査方法

1. 参加した保護者による終了後における記述式アンケート（一次調査）…………… 367名
2. 数カ月後の調査協力に同意した保護者への記述式アンケート（二次調査）… 115名
3. 子ども用のワークシート提出（絵日記／園児向け・感想文／児童向け）…… 絵:70通
感:87通

■ 参加者属性（子ども）

一次	5歳以下	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳以上	不明・無回答	計
	全体	7 1.9%	28 7.6%	54 14.7%	67 18.3%	61 16.6%	47 12.8%	59 16.1%	37 10.1%	7 1.9%	
男子	5 3.1%	17 10.4%	22 13.5%	34 20.9%	26 16.0%	23 14.1%	25 15.3%	9 5.5%	2 1.2%		163
女子	2 1.0%	11 5.4%	32 15.7%	33 16.2%	35 17.2%	24 11.8%	34 16.7%	28 13.7%	5 2.5%		204
										10	10

二次		6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳
	全体	115	7 6.1%	14 12.2%	18 15.7%	19 16.5%	21 18.3%	19 16.5%	14 12.2%
女子	59	3 5.1%	5 8.5%	7 11.9%	14 23.7%	11 18.6%	9 15.3%	10 16.9%	0 0.0%
男子	56	4 7.1%	9 16.1%	11 19.6%	5 8.9%	10 17.9%	10 17.9%	4 7.1%	3 5.4%

※回答者（保護者）は8割が女性。男性の回答61名あり（事前調査より）

理解に対する評価

- 参加直後においては、ほぼすべてにおいて高い理解が示された。とくに、5 ADAY食育インストラクターが解説を加えた項目において、さらに高い理解度が示された（黄色）。
- 数カ月後に実施した二次調査においては、日々の食生活にかかわる項目において、理解の継続効果がみられた。（ピンク）

一次

二次

	直後アンケート (n=349) 「以前から知っていた」+ 「よく理解できた」	モニターアンケート (n=115) 「確かに覚えている、第三 者に説明ができる」	モニターアンケート(n=115) 「確かに覚えている、第三者に 説明ができる」+「なんとなく覚 えてはいるが、第三者に説明で きるほどではない」
農産物や漁業にかかわる人の仕事	84.3%	26.1%	88.7%
製造・加工・物流にかかわる人の仕事	83.4%	27.0%	93.1%
産地から食卓までの食材の流れの全体像	90.0%	20.0%	92.2%
「フードチェーン」という言葉	88.5%	36.5%	93.0%
バランスよい食事の大切さ	94.6%	54.8%	96.5%
健康のための望ましい1日の野菜の量	94.3%	48.7%	93.9%
和食の優れた点	85.7%	42.6%	94.6%

参加者二次アンケートより

- **好き嫌いの克服・野菜摂取量向上（37件）**
 - － 野菜が大好きになりました。1日5皿だね、と食卓で話題にあがるようになった。
 - － 食事のにぎりこぶし大の野菜をとるように心がけました。
 - － 野菜の新鮮さにおどろいた。よく食べるようになった。
- **農産物・製品への興味がみられた（34件）**
 - － とれたてキャベツがおいしかった。ツアーで食べた料理を何度もつくっている。
 - － “とりせん”のことや、“しょうゆ”に興味をもつようになりました。孫がよく口にするのは「ファイブ・ア・デイ」・・
 - － TVコマーシャルでカゴメの商品が出ると「見に行ったよね」と話します。
- **学習事項の再認・体験の再現がみられた（21件）**
 - － 7歳の娘は「5ADAY」の絵をみると、コマの形だよね・・と話たりする。私も一緒に教わったので・・
 - － 家族全体で野菜が体にどれだけ大切かということをあらためて考えることができた
 - － スーパーで5ADAYをみつけた娘が、参加してから2、3ヵ月たつのに覚えていたから驚いた。食べ物をみて赤・黄・緑と言っています（三色食品群）
 - － 食べるときに、どの食品群かを話をする機会が増えました。
 - － スーパーの広告を見るのが大好きになった。5ADAYが乗っていると教えてくれたり……(略)、食卓に並ぶサラダ等の野菜の量が少ないと指摘されたり・・
- **買い物・料理への興味・主催者（店舗）への共感がみられた（15件）**
 - － 食べる専門だった子どもが、一緒に台所に立ってくれるようになりました。
 - － スーパーに興味を持ち、一緒に買い物に行くようになりました。

参加者の行動変容

Q 主食・主菜・副菜のそろった食事をどのくらいとっていますか？

	直後アンケート (n=349)	モニターアンケート (n=115)	差異
1日に2回以上	31.5%	32.2%	+0.7pt
1日に1回位	42.1%	41.7%	-0.4pt
週に4～5回位	10.6%	13.9%	+3.3pt
週に2～3回以下	8.0%	7.8%	-0.2pt
無回答	7.7%	4.3%	-



直後と、数カ月後の比較においては、とくに大きな変化はみられない。(微増/微減混合)

Q ふだん1日の食事の中でどのくらいの野菜を食べていますか？

	直後アンケート (n=368)	モニターアンケート (n=115)	差異
食べていない	0.9%	0.0%	-0.9pt
1～2皿	48.4%	57.4%	+9.0pt
3～4皿	38.1%	29.6%	-8.5pt
5皿以上	6.0%	8.7%	2.7pt
無回答	6.6%	4.3%	-

写真を用いて皿数目安を提示



直後と、数カ月後の比較においては、とくに大きな変化はみられない。(微増/微減混合)

Q 「参加後のお気持ちは？」の中で、食に関する向上意欲を示した人の割合（一次）

もっと食事のバランスを考えようと思った	58.7%
もっと野菜（野菜料理）を食べようと思った	57.3%
もっと和食を積極的に食べようと思った	29.5%



フードチェーン食育活動参加後の、食に関する向上意欲は高かった。

行動変容についての評価の考察

同調査では、野菜摂取向上のための要望／条件をあわせてきている。その結果、＜価格が安くなる／64.6%＞＜レシピや食べ方の説明がある／57.9%＞となっている。このように、食生活の行動変容の計測は、単体、短期のイベントとの関連性だけでない要因（価格・季節要因・健康状態）も大きく、さらに属性（年齢・性別）や経済状況によっても異なる。行動変容は、単年度・短期の評価では測れないことは明白である。

Q10. あなたはどのような条件が揃えばもっと野菜料理を食べるようになりますか。(○印はいくつでも)

	価格が安くなる	鮮度がよくなる	小分けされている	カットしてある	すぐに調理できるようになっている（下ごしらえ済など）	品揃え（種類）が豊富	買う分量が選べる	生産地の情報提供がある	生産者の情報提供がある	安全性の情報提供がある	品種の情報提供がある	栄養成分の情報提供がある	健康効果に関する情報提供がある	野菜摂取量に関する情報提供がある	レシピや食べ方の説明がある	配達してくれる	その他	無回答
全体(n=367)	64.6%	39.4%	18.9%	13.3%	26.1%	30.5%	26.2%	28.1%	15.6%	39.2%	5.7%	24.5%	22.5%	14.1%	57.9%	5.7%	3.7%	5.4%
女性(n=269)	64.5%	38.0%	17.4%	10.1%	24.0%	30.0%	25.1%	25.8%	15.0%	39.0%	5.6%	25.1%	23.3%	13.9%	62.7%	4.5%	3.8%	5.6%
男性(n=68)	67.6%	45.1%	25.4%	28.2%	31.0%	35.2%	26.8%	35.2%	16.9%	42.3%	7.0%	18.3%	22.5%	16.9%	40.8%	9.9%	2.8%	4.2%

運営者評価

(手法の向上)

- 初取組のきっかけとなった（2社）
- 協力・連携した企業団体との関係性が深まった（4社）
- 農業体験・食育・料理教室など、断片的だったものがつながった（4社）

(課題)

- 限られた時間しかない中、食育の講座の時間を盛り込むことは難しい（2社）→とくにメーカーは、自社商品・製品のPRの時間を削減したくない。
- 予算の人員の確保が難しい→メーカー丸投げ・JA丸投げの体制の運営の方が負担がない・よいと思うが・・・
- 売上増へどうつなげるか→食育と商業の区別は、担当者に切り分けしにくい

(推奨意向)

- 費用負担があれば
- 教材やツールの支援があれば

まとめと課題

- “募集型イベント”の一般的な傾向どおり、教育や食についての関心がもともとある参加者層が多いことがうかがえた。長時間の拘束となることから、無関心層にとって、土産提供や食事提供であっても、インセンティブ効果は薄いと考察された。
- “フードチェーンの理解”と“健康食生活への正しい理解”を伝える、5 ADAY食育インストラクターの役割に、高い評価が得られた。また、食育 = 理解度推進に大聞く貢献した。一方で、運営者（主催者）は、第三者の登場により、自社製品・商品のPRの時間が割かれることや、コスト負担についての課題があげられた。
- 充実した食育プログラムである一方、運営側の費用・時間・日常業務との構成が大きな課題であり、定期的な継続は難しいという声も多く挙げられた。
- 有償でのプログラム提供（参加費徴収型）も運営者による事後レビュー会にて検討されたが、「食生活と健康」という、効果が目に見えにくい学習機会に費用を積極的に払う生活者は、意識の高い人の参加へと集中することが容易に想定され、目的をどこにおくのか？ということが議論された。
- 短期・単年度単位での野菜中心の食生活推進の実践検証事業(補助事業) が複数省庁にて、10年以上にわたり実施されてるが、単年度では、モデル実施で終わり、次年度以降の改善、継続的自主実施のためのノウハウ定着にはむすびつかない。野菜摂取状況は、大きく改善していない。活動を提供する側への支援の要望も、多く挙げられた。

農林水産省 平成26年度「フードチェーン食育活動推進事業」
フードチェーン食育プログラム 参加者アンケート

01. ご一緒に参加したお子様についてお答えください。

1. 年齢 () 才
 2. 性別 (男・女) 男 女
 3. 居住 (同居・それ以外) 同居 それ以外

02. ご参加の目的として、あてはまると思うものに○をつけてください。(○印はいくつでも)

1. 自分自身が農林漁業体験に興味があった	9. 子どもに農林漁業体験をさせたかった
2. 自分自身が工場見学に興味があった	10. 子どもに工場見学を経験させたかった
3. 子どもが農林漁業体験に興味をもった	11. 子どもの教育に役立つと思った
4. 子どもが工場見学に興味があった	12. お土産がもらえるから
5. 家族にすすめられた	13. 食事付だから
6. 友人・知人にすすめられた	14. その他 ()
7. ちょうどよい日程・時間だった	
8. なんとなく	

03. 今回のプログラムの内容について、もっともあてはまるものに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つだけ)

	大変よかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった	よく覚えていない
1. フードチェーンについてのDVD視聴 (車中)					
2. 収穫体験 ①農場長による農場の取組の紹介					
3. 収穫体験 ②キャベツの収穫方法や指導					
4. 収穫体験 ③キャベツの収穫体験と集荷作業					
5. 収穫体験 ④農場で働く人への質疑応答					
6. 大橋美代子さんによる食育講座					
7. 収穫したキャベツの試食・調理方法の説明					
8. 野菜など青果物の物流工程の説明 (車中)					
9. 物流センター見学 ①センターの人の説明					
10. 物流センター見学 ②センター施設内の見学					
11. 1日のまとめとおさらい (車中)					

04. 上記の中で特によかったと思うものを3つまで選び、番号をお書きください。

05. 今回のプログラムに参加し、どのようなことが理解できましたか。(○印はそれぞれ1つだけ)

	以前から知っていた	よく理解できた	まあまあ理解できた	理解できていない
1. 農産物や漁業にかかわる人の仕事				
2. 製造・加工・物流にかかわる人の仕事				
3. 販売にかかわる人の仕事				
4. 産地から食卓までの食材の流れの全体像				
5. 食べ物の3つの働き				
6. バランスよい食事の大切さ				
7. 和食の優れた点				
8. 健康のため1日に食べることが望ましい野菜の量				
9. 「フードチェーン」という言葉				
10. 「5 A DAY (ファイブ・ア・デイ)」という言葉				

※次のページもご記入ください。

06. 参加後の今のお気持ちとして、あてはまるものに○をつけてください。(○印はいくつでも)

1. 子どもの教育 (食事や栄養に関する) に大変有益だった
 2. 子どもの教育 (食品の生産や加工、流通に関する) に大変有益だった
 3. 子どもが 楽しそうに過ごしていた
 4. 自分自身が 楽しい時間を過ごした
 5. 食にかかわる人への感謝の気持ちが高まった
 6. 食べ物を大切にしようと思った
 7. 本収穫(作業)体験した農産物(魚含む)をもっと食べよう(買おう)と思った
 8. 本日見学した商品(製造品)のイメージが良くなった
 9. 本日見学した商品(製造品)をもっと食べよう(買おう)と思った
 10. 本日のプログラムを提供してくれたスーパーのイメージがよくなった
 11. もっと野菜(野菜料理)を食べようと思った
 12. もっと食事のバランスを考えようと思った
 13. もっと和食を積極的に食べようと思った
 14. 上記のどれもあてはまらない
 15. その他 ()

07. 上記の中で特によかったと思うものを3つまで選び、番号をお書きください

08. 本日のプログラムを、友人や知人にすすめてみたいと思いますか。

1. 思う 2. やや思う 3. どちらともいえない 4. あまり思わない 5. まったく思わない

※ 上記で「4」または「5」と答えた方、その理由をお聞かせください。

09. 今回のプログラムで特に印象に残ったことや、思い出などがありましたらご自由にお書きください。

※次のページもご記入ください。

※ここからは、あなたご自身の1日の食生活についてお聞きます。
「今後ごしたい」ではなく、「今まで食べてきた」というところをお書きください。

Q8. あなたは1日1日の食事の中で、どのくらい野菜を食べていますか。
1皿の分量を、下の写真を参考にしてお答えください。(O印は1つだけ)

1. 食べていない 2. 1~2皿 3. 3~4皿 4. 5皿以上

1皿あたりの分量の目安

同じ量の野菜料理を同じ皿に盛ったもの(サラダ除く)

※直径13センチ程度の一般的な小鉢を利用・サラダについては同縮尺を適用



Q9. 主食(ごはん、パン、めん類など)・主菜(卵、肉、魚、大豆・大豆製品等が主体のおかず)、
副菜(野菜、海藻、いも類等が主体のおかず)のそろった食事をうちどのくらいとっていましたか。
※主食・主菜・副菜は、下の写真を参照してお答えください。(O印は1つだけ)

1. 1日に2回以上 2. 1日に1回位 3. 週に4~5回位 4. 週に2~3回位 5. それ以下

ほうれん草のお浸し、さし
びらなどの野菜を使った料理
を副菜と数えます。

ごはん、パン、めん類など
を主食と数えます。



魚や肉、卵、大豆などの
かずを主菜と数えます。

ハンバーグや卵料理、お豆
類なども主菜の1例です。

Q10. あなたはどのような条件が揃えばもっと野菜料理を食べようになると思いますか。(O印はいくつでも)

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------------|
| 1. 価格が安くなる | 6. 品揃え(種類)が豊富 | 12. 栄養成分の情報提供がある |
| 2. 鮮度がよくなる | 7. 買う分量が選べる | 13. 健康効果に関する情報提供がある |
| 3. 小分けされている | 8. 生産地の情報提供がある | 14. 野菜摂取量に関する情報提供がある |
| 4. カットしてある | 9. 生産者の情報提供がある | 15. レシピや食べ方の説明がある |
| 5. すぐに調理できるように | 10. 安全性の情報提供がある | 16. 配達してくれる |
| なっている(下ごしらえ済など) | 11. 品種の情報提供がある | 17. その他 |

※次のページもご記入ください。

※最後にあなたご自身についてお聞きいたします。

性別	1. 女性		2. 男性		
年齢	1. 20代	2. 30代	3. 40代	4. 50代	5. 60代以上
同居家族(今回参加されたお子様も含めてお答えください)					
1. 配偶者	5. 高校生以上のお子様()人				
2. 小学校入学前のお子様()人	6. 父親・義父				
3. 小学生のお子様()人	7. 母親・義母				
4. 中学生のお子様()人	8. その他()				
世帯年収(配偶者などもふくめた世帯全体の収入)					
1. 200万円未満	5. 800万円以上~1,000万円未満				
2. 200万円以上~400万円未満	6. 1,000万円以上~1,200万円未満		9. 2,000万円以上		
3. 400万円以上~600万円未満	7. 1,200万円以上~1,500万円未満				
4. 600万円以上~800万円未満	8. 1,500万円以上~2,000万円未満		10. わからない/答えたくない		

☆☆ ご協力ありがとうございました ☆☆

<モニターアンケート ☆ ご協力のお願い>

当事業では、数か月後に再度アンケートにご協力をいただける「モニター」を募集しております。
ご協力いただける方は、下の欄へご住所とお名前ご記入ください。お送りしてモニターアンケートを
お送りいたします(返信封筒付)。ご回答いただいた方へは、下記の謝礼をご送付いたします。

※個人情報アンケートと謝礼の送付にのみ使用し、アンケートの集計分析は個人を特定せず行います。
※お名前とご住所が記入されている場合、個人情報の取り扱いに、ご同意いただいたものとみなします。

ご住所	〒
お名前	

謝礼のお品	NHKの料理番組などで活躍の料理研究家・竹内 真貴子 先生 (ダイエツクエーサー/管理栄養士)の「レシピブック」をご提供いたします。	
(HEALTHY RECIPE シリーズ)	<p>体がよるこぶ ビタミンのおかず 300品</p> <p>体がよるこぶ 食物繊維のおかず 300品</p> <p>体がよるこぶ カルシウムのおかず 300品</p> <p>体がよるこぶ 鉄のおかず 300品</p> <p>体がよるこぶ コラーゲンのおかず 300品</p> <p>女子栄養大学出版部・刊</p>	<p>※本の価格は指定できません。</p> <p>※ご協力者が多数の場合、同等の品に変えさせていただきます。</p>

ご協力、よろしくお願ひいたします。

実施主体：一般社団法人ファイブ・ア・デイ協会